

高校生 地域福祉を体験取材

ボランティアやNPOなどの活動現場を高校生が体験取材をする「高校生による地域支え合いレポート」が、深谷市で始まる。この事業も含め、地域での支え合いを強化しようと、市内の高校や大学、市民団体や企業、商工団体、県など8団体でプロジェクトチームが発足し、顔合わせ会が同市深谷町の旧七ツ梅酒造で行われた。

(米山士郎)

「地域支え合いレポート事業」ネット」で発信する。は、高齢者などの生活を応援し、さらに、新聞折り込みなどでしている深谷コミュニティ協同組合の「街の便利屋さん」や、市内のNPOの活動の現場を、正の情報誌や、深谷商工会議所の智深谷高校の生徒が体験取材。会報、深谷市の市報や県北北部地そのレポートを埼玉工業大学 域振興センターのホームページ木研究室が運営するインターネ などに掲載していく。

「街の便利屋さん」は地域の

深谷でチーム発足



体験取材をする高校生も出席した地域支え合いレポート事業の顔合わせ会
—深谷市深谷町の旧七ツ梅酒造

「相手に喜び与えたい」

高齢世帯などで、買い物代行や庭の草むしり、部屋の掃除などを行う有償ボランティア。事業主体の深谷コミュニティ協同組合が取材をコーディネートし、生徒たちがスタッフの手伝いをしながら取材する。NPOの取材はNPO法人深谷にぎわい工房がコーディネートをする。

取材には、同校インターアクト部2年生の大山香織さんと柳井美歩さんを中心に、20人ぐらいの生徒が参加する見込み。第1回の取材は30日。大山さんと柳井さんが「街の便利屋さん」の利用員宅を訪問する。レポート制作には埼玉大の荒木慶和教授の研究室の学生たちが協力し、第1号を10月に発信する予定だ。

大山さんは「困っている内容は人それぞれ違う。その一つ一つに向き合い、(体験取材を通じて)相手に喜んでもらえるようにしたい」と意欲を語る。深谷コミュニティ協同組合理事の竹石研二さんは「高校生たちにはお年寄りたちのありのままの生活に触れてほしい。まちなかで高齢者が1人で暮らすことがどんなことか、訪ねてみるといういろいろな姿が見えてくるはず」と期待を寄せていた。

また、熊谷、深谷、寄居地区のNPO交流会も行われ、埼玉新聞社の吉田俊一クロスメディア局企画編集部長が、効果的な情報発信の方法について講演を行った。